

取引先各位

令和 2年 6月 3日

株式会社 D M I
107-0062 東京都港区南青山5-4-27
Barbizon104 6F

次亜塩素酸水及び次亜塩素酸水を用いた 空間除菌に関する一部報道について

令和2年5月29日、製品評価技術基盤機構(NITE)が次亜塩素酸水の新型コロナウイルスへの効果について、「まだ検証途中段階であるが、市場で流通している次亜塩素酸水の中には、国が定める製品情報が開示されておらず、その効果の判断さえも不可能な製品が多く見受けられる」、「製法や原料が基礎的な情報であり、その効力は有効塩素濃度と酸性度が指標となる」と発表しました。

本発表は、適切な管理が行われていない製品に対する注意喚起やその機能性の評価であったにも関わらず、一部報道においては、次亜塩素酸水の安全性や機能性について、その効果が認められないとの誤解を招きかねない内容の記事も見受けられます。

次亜塩素酸水の除菌効果につきましては、様々な機関での検証結果を基に、厚生労働省がその機能性を認めております。

<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002wy32-att/2r9852000002wybg.pdf>

このように次亜塩素酸水の効果については、国から様々なエビデンスが示されており、医療現場においても効果的な除菌剤として広く浸透しております。

弊社製品Uroomは、第三者機関の検証に基づき、除菌効果と安全性を確保するための適切な有効塩素濃度と酸性度に関する基準を満たしております。

弊社は、国や専門性の高い機関から発表されたデータを検証し、現代社会に向け、次亜塩素酸水に関する正しい製品知識の啓蒙活動を行う一方、国や様々な機関と連携を図り、常に最新の情報に基づいた製品開発を徹底し、新たな生活様式の基礎を創造して参ります。

弊社製品を通して皆様の生活空間に安心して快適なセーフティゾーンを提供するという理念を原則とし、これからの事業活動を社会貢献活動へと繋げて参る所存でございます。

※超音波霧化法による空間除菌について

第三者機関(一般財団法人予防環境協会)が実施したUroom成分の空間噴霧による除菌効果試験では、浮遊細菌に対する除菌効果において、精製水を噴霧した場合に比して明らかな優位性が報告されております(表1)。同様にバクテリオファージ除去効果試験(表2)においてもその効果が明確に報告されております。

(表1)Uroomの浮遊細菌除菌効果

	自然減衰	精製水	Uroom
0分	100.0	100.0	100.0
10分	77.7	66.0	31.6
20分	50.6	38.9	0.0
30分	43.0	26.1	0.0
45分	30.3	19.3	0.0

(表2)Uroomのバクテリオファージ除去効果

	自然減衰	精製水	Uroom
0分	100.0	100.0	100.0
10分	71.4	55.0	0.4
20分	71.4	65.0	0.0
30分	45.2	60.0	0.0

三重大学大学院生物資源学研究科の福崎教授は、「超音波霧化法による空間殺菌がノロウイルス、インフルエンザウイルスにも有効であり、微細噴霧粒子は、短時間の噴霧では対象物の表面を濡らさないという利点を持つため、カーテン、衣類、カーペットなどの繊維表面のドライ消毒にも有効であると思われる」と述べています。

また、霧化粒子の吸入の安全性においては、実験動物のレベルで確認されており、ラットによる90日間亜慢性吸入毒性試験では、雌雄ともに血液学的検査、および肺の病理組織学的検査の結果において、特記すべき変化は見られないことが報告されています。

<http://www.mac.or.jp/mail/141001/02.shtml>

この他、微酸性次亜塩素酸水の空間噴霧の有効性と安全性については、鹿児島大学共同獣医学部の帆保教授により「微酸性次亜塩素酸水の約30分間の空間噴霧により、空気中の浮遊細菌数が10分の1以下に減少することや空間噴霧の継続により空気中の細菌数が限りなくゼロに近づくことが証明されました。さらに、微酸性次亜塩素酸水の空間噴霧を牛の飼養施設内5年間以上に渡って実施していますが、動物や作業従事者に対する安全性に関する問題は全く発生していません。」と報告されています。

<http://www.m-hatta.co.jp/product/image/repo.pdf>

また、鳥取大学の小野朋子農学博士氏は、pH5.8～6.2、有効塩素濃度30～200ppmに調製した弱酸性次亜塩素酸水溶液を容積0.3m³の実験用ブース内で超音波式噴霧機を用いて一定時間噴霧することでの卵殻表面の一般生菌に対する殺菌試験を行いました。が、「従来のホルマリン燻蒸と同等の効果が得られ、種卵に対する悪影響は認められず、安定した孵化率が得られている」としています。

http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/files/public/0/4858/20180622151346554355/G31_15101B00115.pdf

以上